

令和7年度 事務事業評価表 (令和6年度実績)

事務事業名		動物園リニューアル事業費			担当所属	動物園			
基本情報	分野	6 産業・観光		事業期間	平成20年度 ~ 令和14年度				
	基本施策	5 観光交流の推進		会計種別					
	推進施策	3 徳山動物園の魅力向上		実施計画	該当	総合戦略	該当		
事業概要	対象	動物園施設全般							
	意図	動物園の全面リニューアルを計画的に進め、魅力向上による来園者数の増加を図るとともに、「まちなか動物園」として中心市街地との連携を図り、交流人口の拡大や「まち」の活性化に繋げる。							
	成果	リニューアルの第1弾として北園において平成28年3月に「るんちゃるんちゃ」がオープンし、平成29年10月に自然学習館「ねいちゃる」・野鳥観察所、平成30年8月にペンギンプール・ふんすい広場が順次オープンした。南園においては平成31年4月にソウ舎、令和4年8月に熱帯サル舎の完成に伴い、アジアの熱帯雨林ゾーンが完成し、動物園の魅力向上を図った。							
	手段	・老朽化が進む動物園の全面リニューアルを計画的に行い、動物、人、環境にやさしい動物園としてハード整備を推進する。・園内に更なる賑わいを創出し、利用者サービスの向上を図るため、管理運営部門及び建設の一部に民間活力の導入を推進する。(P-PFI制度及び指定管理者制度の導入推進)							
指標	活動指標	指標名		単位	R4年度実績	R5年度実績	R6年度実績	R7年度見込	
		整備進捗率(面積ベース)		目標値	%	45.7	46.7	48.7	51
				実績値	%	45.4	45.7	46.8	-
				目標達成度	%	99.3	97.9	96.1	-
コスト	(単位:千円)								
	トータルコスト		令和3年度 決算	令和4年度 決算	令和5年度 決算	令和6年度 決算	令和7年度 予算		
	事業費		290,734	141,236	313,070	1,068,774	456,842		
	特定財源	国庫支出金	257,137	110,394	280,864	1,036,811	416,176		
		県支出金	119,471	52,911	125,534	492,684	188,000		
		地方債	0	0	0	0	0		
		受益者負担	100,200	39,400	132,000	490,400	169,200		
		その他	0	0	0	0	0		
	一般財源		37,466	18,062	19,128	51,729	51,476		
	人件費合計		33,597	30,842	32,206	31,963	40,666		
正職員		33,597	30,842	32,206	31,963	40,666			
正職員以外		0	0	0	0	0			
(事業費集計済分)		(0)	(0)	(0)	(0)	(0)			
人員	正職員 (人)	4.73	4.28	4.43	4.26	5.42			
	正職員以外 (人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00			
環境変化等	開始時の周辺環境								
	昭和35年3月に開園した徳山動物園は、園内施設の老朽化が著しく、また、動物展示の方法が利用者ニーズや動物福祉、動物園としての使命等に適合しなくなってきた時代背景から、開園しながらの動物園の全面リニューアルに着手した。								
	現状の周辺環境								
	平成21年度に「徳山動物園リニューアル基本計画」を策定し、平成25年度から工事に着手した。その後、令和2年度に基本計画の事業期間や全体事業費等について見直しを行い、現在は、新たな基本計画に基づきリニューアル整備を鋭意推進している。また、事業の中間に差し掛かった現在、新たな動物園の更なる賑わい創出のため、動物園の管理・運営・建設の一部に民間活力の導入(公民連携事業の適用)を検討している。								
今後の予想される周辺環境									
基本計画に基づき、令和14年度の事業完了に向け、着実な事業進捗を図る。今後、当事業では、従来計画どおりの直営施工による整備と、公民連携による整備を併用して実施することで、より効率的かつ効果的に事業を推進していきたい。									
評価	評価項目		評価	評価の理由					
	妥当性	1. 市の関与(税金支出)	A	動物園の全面リニューアルを実施し動物園の魅力向上を図ることで来園者数の増加や中心市街地の賑わいの創出につなげる。					
		2. 事務事業の目的(対象・意図)	A						
		3. 事務事業の目標(活動指標等)	A						
	有効性	4. 計画の実施状況	B	令和6年度に管理ゾーンの完成を計画していたが、建物および工作物の建設は完了したものの、補助事業費の内示の遅延もあり、門扉や舗装等の外構工事の完了が令和7年度内となる。					
		5. 目標(活動指標等)の達成度	B						
		6. 上位施策への貢献度	A						
		7. 事業成果の向上へのさらなる取組み	A						
	効率性	8. コスト削減へのさらなる取組み	A	動物園リニューアル事業は、動物園を取り巻く状況、期待される役割の変化や市の財政状況等を踏まえ、令和2年度に基本計画の見直しを行い、計画的に整備を進めている。					
		9. 類似事業との統合・代替の検討	A						
10. これまでの実施手段		A							
総合評価	A	動物園リニューアル事業は、令和2年度に事業の中間年として進捗等を再確認し、基本計画の見直しを行っており、事業精査をしながら計画的に整備を進めている。							
改革案	今後の実施方向性	維持	動物園リニューアル事業は、平成25年度の工事で以降、順次整備を進めてきたが、事業開始から10年が経過した令和2年度に中間年の見直しとして基本計画を変更した。この後に取り組んだ公民連携事業(P-PFI、指定管理者制度)の導入により効率的な事業推進が期待できる。一方、昨今の物価上昇や働き方改革等による人件費の高騰で建設コストの増大の影響は甚だしく、全体事業費は増大が見込まれている。						
	成果方向性	成果上昇							
	コスト方向性	コスト増大							
	改革効果(どのような効果が期待できるか)							・建設事業のピークが到来しており更なる人員補充が必要であり、今後、直営施工と公民連携による建設等の事業併用が加速化することで柔軟に対応する必要がある。・建設事業と管理運営の仕組みの見直しで園の更なる魅力向上に繋がり、集客力の増加に伴う入園料収入の増加が、今後、管理運営費における自主財源比率の向上を見込む。	

令和7年度 事務事業評価表 (令和6年度実績)

事務事業名		動物園管理運営事業費			担当所属	動物園		
基本情報	分野	6 産業・観光	事業期間	～ 永年				
	基本施策	5 観光交流の推進	会計種別					
	推進施策	3 徳山動物園の魅力向上	実施計画	総合戦略				
事業概要	対象	徳山動物園の管理運営に関する全般						
	意図	本市有数の情報発信・交流拠点として、動物園に市内外から多くの来園者を迎える体制を確保することで、その役割を果たすことができる。						
	成果	動物園を交流拠点施設として、また、社会教育施設として管理運営することにより、交流人口の拡大や市民のレクリエーション機能の充実を図ることができるとともに、動物を通じて、自然環境に対する見識の向上を図る。						
	手段	【事業概要】動物園を交流拠点施設として、また、社会教育施設として、管理運営を図る。【主な内容】入園者の受付、駐車場の整理、予算管理執行、開園のための勤務体制の確保、施設の維持・保守点検、事業を告知するための広告宣伝、入園料収入以外の自主財源の確保						
指標	活動指標	指標名		単位	R4年度実績	R5年度実績	R6年度実績	R7年度見込
		徳山動物園の入園者数		人	300000	300000	300000	300000
				人	263406	223577	209461	-
				%	87.8	74.5	69.8	-
コスト	(単位：千円)		令和3年度 決算	令和4年度 決算	令和5年度 決算	令和6年度 決算	令和7年度 予算	
	トータルコスト		103,045	117,786	120,260	132,746	170,256	
	事業費		83,583	87,377	88,563	101,534	139,344	
	特定財源	国庫支出金	0	0	0	0	0	
		県支出金	0	0	0	0	0	
		地方債	0	0	0	0	0	
		受益者負担	16,259	29,998	22,199	1,102	30,652	
		その他	7,982	10,760	11,928	14,058	12,457	
		一般財源	59,342	46,619	54,436	86,374	96,235	
	人件費合計		19,462	30,409	31,697	31,212	30,912	
	正職員		19,462	30,409	31,697	31,212	30,912	
正職員以外		25,262	26,567	27,926	33,972	55,317		
(事業費集計済分)		(25,262)	(26,567)	(27,926)	(33,972)	(55,317)		
人員	正職員 (人)	2.74	4.22	4.36	4.16	4.12		
	正職員以外 (人)	10.37	10.39	10.89	10.94	12.25		
環境変化等	開始時の周辺環境							
	徳山動物園は、旧徳山市の市制施行25周年を記念して昭和35年3月20日に開園							
	現状の周辺環境							
評価	評価項目		評価	評価の理由				
	妥当性	1. 市の関与(税金支出)		A	市の交流拠点施設及び観光施設として、動物園は重要な施設であり、動物を通じた「命の学習」、「環境学習」の拠点施設であるとともに、地域の賑わいづくりにも寄与している。			
		2. 事務事業の目的(対象・意図)		A				
3. 事務事業の目標(活動指標等)		A						
有効性	4. 計画の実施状況		B	エサやり等のイベントメニューを増やした結果、イベント参加者は増加したが、天候等の外的要因により入園者数は当初の見込みを下回るものであった。リニューアルの進捗により入園者増が期待できる一方、レジャーの多様化が進んでおり、民間活力導入により集客力の向上を図る必要がある。				
	5. 目標(活動指標等)の達成度		C					
	6. 上位施策への貢献度		B					
	7. 事業成果の向上へのさらなる取組み		B					
効率性	8. コスト削減へのさらなる取組み		A	維持管理経費等については毎年精査しているが、直営ではこれ以上の削減は難しい。自主財源の確保に努めるとともに、管理運営のアウトソーシングの手続きを進めている。				
	9. 類似事業との統合・代替の検討		A					
	10. これまでの実施手段		B					
総合評価	B	動物園リニューアル事業と合わせ、民間活力(指定管理者制度等)導入により集客力の向上を図る必要がある。						
改革案	今後の実施方向性	維持	動物園は、本市における重要な観光交流拠点施設であるとともに、「いのちの博物館」として、種の保存、環境教育等の重要な役割を担っており、民間活力の導入を視野に入れつつ、今後も適切に管理運営をしていく必要がある。					
	成果方向性	成果維持						
	コスト方向性	コスト維持						
	改革効果(どのような効果が期待できるか)							
リニューアル事業の進展に合わせて、動物園の魅力向上、入園者数増に繋げていく。								

令和7年度 事務事業評価表 (令和6年度実績)

事務事業名		動物園教育普及事業費			担当所属	動物園			
基本情報	分野	6 産業・観光	事業期間	～ 永年					
	基本施策	5 観光交流の推進	会計種別						
	推進施策	3 徳山動物園の魅力向上	実施計画	総合戦略					
事業概要	対象	徳山動物園に来園された方、また、徳山動物園の情報を受け取った方							
	意図	動物園に来園された方などに、動物の情報や動物をとりまく生息地環境について興味を持っていただき、環境に配慮した豊かで文化的な市民生活の実現に資するもの							
	成果	小動物の貸し出しを多くの小学校で進めるなど体験的な学習機会の提供を進め、参加者数は前年度と比べて約4%の増となった							
	手段	教育イベントやプログラム、コンクールの実施、講演会の開催、各種解説の表示などで、市民や入園者が動物の環境などについて考える機会を提供する。							
指標	活動指標	指標名		単位	R4年度実績	R5年度実績	R6年度実績	R7年度見込	
		教育イベントの延べ参加者数等		目標値	人	15000	15000	15000	15000
				実績値	人	13015	12071	12617	-
		目標達成度		%	86.8	80.5	84.1	-	
コスト	(単位：千円)		令和3年度 決算	令和4年度 決算	令和5年度 決算	令和6年度 決算	令和7年度 予算		
	トータルコスト		16,915	11,560	12,054	12,400	10,681		
	事業費		862	679	713	695	1,077		
	特定財源	国庫支出金	0	0	0	0	0		
		県支出金	0	0	0	0	0		
		地方債	0	0	0	0	0		
		受益者負担	862	679	713	695	1,077		
		その他	0	0	0	0	0		
	一般財源		0	0	0	0	0		
	人件費合計		16,053	10,881	11,341	11,705	9,604		
正職員		16,053	10,881	11,341	11,705	9,604			
正職員以外		0	0	0	0	0			
(事業費集計済分)		(0)	(0)	(0)	(0)	(0)			
人員	正職員 (人)	2.26	1.51	1.56	1.56	1.28			
	正職員以外 (人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00			
環境変化等	開始時の周辺環境								
	昭和35年の開園時から動物画コンクールを県下3園館で実施								
	現状の周辺環境								
評価	評価項目		評価	評価の理由					
	妥当性	1. 市の関与(税金支出)	B	市営の動物園として、動物を通じた環境学習や、命の学びを提供していくことは重要な使命である。					
		2. 事務事業の目的(対象・意図)	A						
3. 事務事業の目標(活動指標等)	A								
有効性	4. 計画の実施状況		B	1日あたりの団体向け体験メニューを最大4メニューまで実施した結果、利用者は昨年度比で約70%の増となり、小動物貸し出し事業なども昨年度比約50%の増となった。また、歳時記的なイベントも積極的に行った。					
	5. 目標(活動指標等)の達成度		B						
	6. 上位施策への貢献度		B						
	7. 事業成果の向上へのさらなる取組み		B						
効率性	8. コスト削減へのさらなる取組み		A	環境学習と命の学習について、引き続き取り組んでいく。					
	9. 類似事業との統合・代替の検討		A						
	10. これまでの実施手段		A						
総合評価	B	動物園は、「いのちの博物館」であり、動物を通して、「自然環境」や「いのち」について学ぶ場であることが大切である。							
改革案	今後の実施方向性	維持	動物園は、「いのちの博物館」という使命をもって、今後も教育普及活動に取り組んでいく。						
	成果方向性	成果維持							
	コスト方向性	コスト維持							
	改革効果(どのような効果が期待できるか)								
社会変化に応じたプログラムの形態や情報提供の手法について、広く検討が必要である。また、職場体験や学校への小動物貸し出し等のニーズの高い取り組みは、ITを利用しながら進めていく。									

令和7年度 事務事業評価表 (令和6年度実績)

事務事業名		動物園飼育事業費			担当所属	動物園			
基本情報	分野	6 産業・観光	事業期間	～ 永年					
	基本施策	5 観光交流の推進	会計種別						
	推進施策	3 徳山動物園の魅力向上	実施計画	総合戦略					
事業概要	対象	徳山動物園の飼育動物							
	意図	展示動物を適切に飼育管理し、また繁殖、調達することで、種の保存に取り組み、継続的な動物園業務の実現を図るもの。							
	成果	令和7年3月末現在で、103種532点の動物を飼育展示しており、入園者が観察することができている。そのうち10種62点の繁殖実績となった。							
	手段	動物福祉に配慮した適正な飼育環境を維持し、必要な飼料を準備する。必要な検査、診療を行い、飼育技術の向上のための情報を収集し研究する。							
指標	活動指標	指標名		単位	R4年度実績	R5年度実績	R6年度実績	R7年度見込	
		繁殖推進種繁殖率		目標値	%	30	30	30	30
				実績値	%	42	42	40	-
				目標達成度	%	140.0	140.0	133.3	-
コスト	(単位：千円)		令和3年度 決算	令和4年度 決算	令和5年度 決算	令和6年度 決算	令和7年度 予算		
	トータルコスト		103,007	128,969	134,350	150,116	157,768		
	事業費		31,409	36,300	41,149	53,928	54,227		
	特定財源	国庫支出金	0	0	0	0	0		
		県支出金	0	0	0	0	0		
		地方債	0	0	0	0	0		
		受益者負担	30,555	36,046	40,095	53,112	51,997		
		その他	854	254	1,054	816	2,230		
	一般財源		0	0	0	0	0		
	人件費合計		71,598	92,669	93,201	96,188	103,541		
正職員		71,598	92,669	93,201	96,188	103,541			
正職員以外		4,661	5,244	5,141	18,599	11,880			
(事業費集計済分)		(4,661)	(5,244)	(5,141)	(18,599)	(11,880)			
人員	正職員 (人)	10.08	12.86	12.82	12.82	13.80			
	正職員以外 (人)	1.60	1.60	1.60	4.80	3.74			
環境変化等	開始時の周辺環境								
	昭和35年3月に80種350点の展示動物で徳山動物園が開園した。								
	現状の周辺環境								
動物園開園後、昭和46年には192種837点の展示動物を飼育、昭和58年には903点と展示動物が増加したが、その後減少し、令和7年3月末現在、103種532点の展示動物を飼育している。									
今後の予想される周辺環境									
野生動物保護の観点から、動物の輸入は年々困難になっている。動物の購入・導入については、プリーディングローンの適切な運用などで、機会をとらえた動物の確保を進めていく必要がある。									
評価	評価項目		評価	評価の理由					
	妥当性	1. 市の関与 (税金支出)		A	継続的な動物園業務の実現を図るため、また、動物園の大きな役割の一つである「種の保存」という観点からも、展示動物の適切な飼育管理は必要である。				
		2. 事務事業の目的 (対象・意図)		A					
		3. 事務事業の目標 (活動指標等)		A					
	有効性	4. 計画の実施状況		A	リニューアル後の飼育計画種などを中心に、繁殖を推進し、動物の補充を進めている。				
		5. 目標 (活動指標等) の達成度		A					
		6. 上位施策への貢献度		A					
		7. 事業成果の向上へのさらなる取組み		A					
	効率性	8. コスト削減へのさらなる取組み		A	動物園の飼育動物は、野生から調達するものによるのではなく、動物園内で繁殖させ確保する必要性が高まってきている。				
		9. 類似事業との統合・代替の検討		A					
10. これまでの実施手段		A							
総合評価	A	動物園の重要な役割である「種の保存」を実践できるように適正な飼育管理を行っていかねばならない。動物たちの元気な姿を多くの市民にご覧いただき、学びと楽しさのある動物園として引き続き役割を果たしていく。							
改革案	今後の実施方向性	維持	動物園の大事な役割の一つである「種の保存」を実現していくため、今後も適切な飼育を行い、繁殖を促していくことが重要である。						
	成果方向性	成果維持							
	コスト方向性	コスト維持							
	改革効果 (どのような効果が期待できるか)								
動物園の重要な役割である「種の保存」を実践できるような適正な飼育管理が図られる。合わせて、動物たちの元気な姿を多くの市民にご覧いただき、学びと楽しさのある動物園としての役割が果たせる。									

令和7年度 事務事業評価表 (令和6年度実績)

事務事業名		動物園魅力向上推進事業費			担当所属	動物園			
基本情報	分野	6 産業・観光		事業期間	平成17年度 ~ 永年				
	基本施策	5 観光交流の推進		会計種別					
	推進施策	3 徳山動物園の魅力向上		実施計画	総合戦略	該当			
事業概要	対象	徳山動物園に来園された方、また、徳山動物園の情報を受け取った方							
	意図	常に動物園から情報を発信し身近な存在として感じていただくことで、動物園の魅力を上向きさせるもの。ボランティアの力を活用して先進的な取り組みや質の高いサービスを提供しようとするもの。							
	成果	動物園のリアルタイムな情報をこまめに発信し、全国へ周南市の知名度を上げることに貢献できた。また、園内では、ふれあい体験などを通じて、観る動物園から、体験する動物園としての魅力向上に寄与している。							
	手段	動物園に関する情報を発信し、多くの人々に楽しく興味深い企画を開発し提供する。ボランティアの育成を通じ、より魅力ある動物園とする。							
指標	活動指標	指標名		単位	R4年度実績	R5年度実績	R6年度実績	R7年度見込	
		各体験などの利用者数		目標値	人	150000	150000	150000	150000
				実績値	人	122740	176238	164376	-
				目標達成度	%	81.8	117.5	109.6	-
コスト	(単位：千円)		令和3年度 決算	令和4年度 決算	令和5年度 決算	令和6年度 決算	令和7年度 予算		
	トータルコスト		61,959	52,517	51,526	58,176	55,996		
	事業費		19,057	19,514	19,320	24,938	27,034		
	特定財源	国庫支出金	0	0	0	0	0		
		県支出金	1,213	1,123	6,390	6,388	6,300		
		地方債	0	0	0	0	0		
		受益者負担	15,744	14,507	7,235	10,188	11,234		
		その他	2,100	3,884	5,695	8,362	9,500		
	一般財源		0	0	0	0	0		
	人件費合計		42,902	33,003	32,206	33,238	28,962		
正職員		42,902	33,003	32,206	33,238	28,962			
正職員以外		14,919	14,822	16,881	21,936	24,167			
(事業費集計済分)		(14,919)	(14,822)	(16,881)	(21,936)	(24,167)			
人員	正職員 (人)	6.04	4.58	4.43	4.43	3.86			
	正職員以外 (人)	5.13	5.07	5.13	5.13	3.24			
環境変化等	開始時の周辺環境								
	「見るだけ」の動物園から「ふれあう、体験する」という新しい形の動物園運営に繋げるために、体験をベースにした事業を展開している。								
	現状の周辺環境 動物園リニューアル事業により、平成28年の周南の里エリア ふれあいゾーン「るんちゃ♪るんちゃ」を皮切りに、順次新エリアがオープンし、多様な体験プログラムを展開している。県内にとらわれずより多くのファンを獲得するため、SNSでの情報発信を強化した。								
環境変化等	今後の予想される周辺環境								
	周南市の観光資源として地域の観光ニーズは高まっていくと思われる。体験プログラムの充実や、SNSなどでの情報提供の拡大、ボランティアの活動促進などにより、動物園の魅力向上に繋げていくことが求められる。								
評価	評価項目		評価	評価の理由					
	妥当性	1. 市の関与（税金支出）	A	周南市の主要な観光交流拠点として、動物園の魅力向上を図ることは必要である。					
		2. 事務事業の目的（対象・意図）	A						
		3. 事務事業の目標（活動指標等）	A						
	有効性	4. 計画の実施状況	A	小動物のふれあい体験など動物園ならではの体験イベントを積極的に行った。また、情報発信におけるSNSの重要性が増していく中、引き続きイベントの取り組みやSNSなどで動物園のリアルタイムの情報を周知した。					
		5. 目標（活動指標等）の達成度	A						
		6. 上位施策への貢献度	A						
		7. 事業成果の向上へのさらなる取り組み	A						
	効率性	8. コスト削減へのさらなる取り組み	A	魅力的な体験を中心に、ボランティアなどと協力しながら、本市の主要な観光施設として魅力向上を進める。					
		9. 類似事業との統合・代替の検討	A						
10. これまでの実施手段		A							
総合評価	A	「見る動物園」から「ふれあう、体験する動物園」というニーズに応えながら、「環境」や「命」を学べる魅力的な取り組みを継続する。また、市内の観光施設などを併せて発信し、回遊性を高める取り組みが必要である。							
改革案	今後の実施方向性	維持	「ふれあう、体験する」というニーズに応える魅力的な事業を行いながら、来園者の増加に繋げる。また、来園者による地域の周遊性を高めるよう、近隣の施設や中心市街地などの連携の在り方について検討する。SNSなどの利用をさらに進め、より広域に認知を高めていく。						
	成果方向性	成果維持							
	コスト方向性	コスト維持							
	改革効果（どのような効果が期待できるか）						動物園の来園者による地域経済への波及効果の向上、また、地域資源との連携による相乗的な動物園の魅力向上が図られる。		